

C₂排出実質ゼロのLPGガス

マルエイ、販売に参入

海外型と国内型 供給先に証明書

総合エネルギー事業のマルエイ(岐阜市入舟町、澤田栄一社長)は、二酸化炭素(CO₂)排出が実質ゼロになるLPGガス「カーボンニュートラルLPGガス」の販売に乗り出した。LPGガスの生産から輸送、燃焼までの過程で発生するCO₂を、森林などによる吸収分で相殺する仕組み。既に県内の複数事業者に供給を始めており、契約件数のさらなる増加を図る。

(山本貴史)

販売するのは海外型と国内型の2種類のカーボンニュートラルLPGガス。現状は、石油大手シエルのLPGガスをアストモスエネルギーを通じて購入した海外型を契約先に供給している。国内型は、県森林公社の「クレンジットを活用した、国が温室効果ガス排出削減吸収量を認証したLPGガス」となる。

6月から、関市のたい焼

環境面のPR材料に活用し

てもらう。

販売に先駆け、マルエイでは今年4月にグループ全

8月の県信用保証概況

承諾8.9%増の551件

県信用保証協会がまとめた8月の信用保証概況によると、中小企業が金融機関から融資を受ける際に協会



が行う保証承諾は、件数が前年同月比8・9%増の551件、金額が1・3%減の62億8900万円となった。件数は3カ月連続で前年同月を上回り、金額は3カ月ぶりに下回った。

承諾金額を主な業種別にみると、小売業(飲食業を含む)が71・1%増と急伸したが目立つが、卸売業が25・5%減、建設業が20・6%減、製造業とサービ

の支店、営業所で使用するLPGガスをカーボンニュートラルLPGガスに切り替えた。澤田社長は「当社ではSDGs(持続可能な開発目標)が叫ばれる前から太陽光発電やバイオマスボイラー、農業など環境に配慮した取り組みを進めてきた」と述べ、「カーボンニュートラルLPGガスもその一環で、需要は今後拡大するはずだ」と見通す。



河合寿司 昭和56年創業

「仕事は人の縁が大事」と話すのは、河合寿司(大垣市横曽根)の河合敏直社長(42)。商圏や立地を人念に分析して店舗戦略を描くが、「時期や出店数を決め過ぎず、縁のあったタイミングを生かす」ことを心がける。

1981年創業で、昨年40周年を迎えた。新型コロナウイルスの流行で大口取引は減ったが、和合インター店(大垣市)をオープン

「おむすび屋」軸に出店

近況

するな
イクア
今年
地域へ
北方町
「おむ
開店。
業員の
一新し
く、自
戦なの
を輝か
根強
種類以
態のお
の出店
める構
開し、
げを確

ス業ともに13・7%減とそれぞれ減少した。8月末時点の保証債務残高は、3・1%減の5448億5800万円だった。

金融機関から返済延滞などの通知を受ける事故報告受け付けは、件数が15・7%増の96件、金額が67・6%増の13億6800万円。返済が困難な企業に代わって協会が返済する代位弁

済は件数が2・0倍の35件で、金額は55・7%増の4億3200万円だった。代位弁済の金額は4カ月連続で前年同月を上回っており、担当者は「事故報告の受け付けも増加傾向で、今後の動向をより注視する必要がある」と指摘した。

条件変更の承諾は11・7%増の552件、そのうち

8月ビール類

サッポロビール「醸造をプ